

第1回三学期制移行準備委員会 要点記録

【委員長】

ただいまより、第1回三学期制移行準備委員会を開会する。
それでは、次第に沿って進めさせていただく。
まず、本委員会の取り扱いについて、事務局からの説明をお願いします。

【事務局】

－本委員会の公開について説明－
－本委員会の設置の趣旨について説明－
－資料1に基づき、設置要項の説明－

【委員長】

それでは、早速、議事を進めていく。はじめに、議事（1）「三学期制について」、資料が提出されているので、事務局より説明をお願いします。

○議事（1）三学期制について（資料4）

【事務局】

－資料4に基づき説明－

【委員長】

説明について、質問等はあるか。

【委員】

資料4 7ページの下から3行目の「子供と教師が向き合う時間」を抜いたのはあえてか。

【事務局】

包括して表現している。7ページの12行目にあるように「先生方の負担」については示している。

【委員長】

どちらがよいかではなく、三学期制を前提に話をしてもらいたい。小学校にはメリットが大きかった。中学校は受験もあり、負担が増えたところもある。それらを踏まえて三学期制の在り方を考えたい。

どちらの学期制がよいかという議論をする場ではない。校務支援システムで資料について疑問を寄せていただいてもよい。

○議事（2）検討課題について（資料5）

【事務局】

－資料5に基づき説明－

【委員長】

事務局より説明があったことについて意見はあるか。

【委員】

かつての三学期制に戻すのではないとすると、古い三学期制と新しい三学期制の「新たな」が指し

示すものの意味を考えていきたい。

【委員長】

「新たな」という質問は教育委員会でもあった。何をもって「新たな」というかについては検証委員会でも議論していない。「新たな」の意味を考えるのも準備委員会の役割である。

【委員】

評価が問題である。二学期制はきめ細やかな評価になるか疑問があった。評価の意味付けを作り直す必要がある。一学期・二学期・三学期と区切って評価するものではない。学びの連続性は評価と大きな関わりがある。評価の考え方そのもの考える必要がある。従来の評価観を変えねばならない。

【委員】

中学校3年生の評価が進路に大きく関わる。「新たな」の公的な説明の仕方にばらつきがあってはならない。教師・保護者・地域が納得する新たな試みを共通理解したい。その中で最も大きいのは評価の問題である。中学校も一学期・二学期を区切って評価し、三学期をまとめの評価と捉えているところが多い。

都立高校入試における内申の換算点は増える予定である。定期考査の在り方の検討も必要である。中学校3年生は自分の学力を知っていないと学校選びができない。保護者も同様である。しかし、二学期制では進路選択に関わる学力評定を示すことができなかつた。三学期制にすると示しやすくなる。評価に特化して考えれば中学校は三学期制がよい。

【委員】

中学校は三学期制が進路指導には合っている。夏休み前に通知表を出すことを望む学校も多い。一方、二学期制は授業時数の確保に役立った。

【委員】

3年生のことを考えれば三回評価したい。三学期制の学校も今は授業時数確保のため終業式の日にお昼を食べてしっかり授業しているところも多い。

【委員】

小学校の二学期制のよさについて知らないことも多かつた。この課題は小中一貫教育推進の課題とも関わりがある。二学期制のよさを引き継いで新たな三学期制を考えていくとよい。

【委員】

小学校は二学期制のメリットを感じていると思う。新たな三学期制のためにどこを大事にしていくかがはっきりしていくとよい。

【委員】

中学校が三学期制を望む考えを小学校でどう意味付けるかだと思う。

【委員】

現場は以前の三学期制の経験で考えると思う。新たな“社会に対応する”三学期制、新たな“評価観に基づく”三学期制など、「新たな」の次の言葉に何が入るかを考えることが大切である。今後の受験の動き、これからの社会の変化を見通した三学期制としていく議論をしたい。

【委員】

小学校の二学期制への肯定感が大きいことからオールクリア・オールリセットという考え方でなく二学期制の成果を生かすべきである。

【委員】

小学校としては行事や研究会等の設定において効果的だったよさを生かしたい。

【委員】

自校では三学期制にした際にも二学期制のときと同様に個人面談や家庭訪問を行うのかということへの不安が強い。不安感・負担感を減らしたい。

【委員】

三学期制にして夏季休業中に個別面談、水泳指導、夏季補充教室を行うのは不可能である。時数・評価の面は二学期制のよさを生かせると思う。

【委員】

学務課は学校行事が大きく関わる。将来の子供の学力の定着を第一に考えなければならないと改めて認識した。

【委員】

他区市でも三学期制に移行する学校が多い。どこも「新たな」を打ち出している。先行自治体の工夫にも注目し、できるだけ混乱を防ぎながら実施していきたい。

【委員】

保護者としては二学期制に混乱を感じなかった。先生方の負担が減ったということも歓迎していた。小学校の保護者としては三学期制にして先生の負担が増えるなら疑問を感じるが、負担が減るなら歓迎したい。中学校3年生の受験を考えると三学期制に賛成ではある。

【委員】

三学期制のニーズは中学校の保護者からが多いと思う。夏休み前の成績がないことで子供のエンジンがかからないのが不安である。三学期制で先生方が忙しくなり、先生たちと子供たちの信頼関係が崩れるのが不安である。先生と子供が一体となるようなゆとりは残してほしいし、そういう評価になるとよい。

土曜授業と習い事の関係を考える必要もある。

【委員長】

土曜授業は8回より少なくなることはない。増えることはある。しかし、教育委員会としては8回で考えている。

【副委員長】

これからどこまでの内容を検討していくのかということも課題である。

【委員長】

長期休業の期間は変えないということは前提である。

○議事（3）校務支援システムに関する対応について（資料6）

【事務局】

－資料6に基づき説明－

○議事（4）三学期制移行までのスケジュールについて（資料7）

【事務局】

－資料7に基づき説明－

【委員長】

議事（3）（4）について質問、質問などはあるか。

【委員】

この委員会の趣旨は校務支援システムの検討会なのか。校務支援システムの議論はここですべきではないと考える。我々は三学期制の骨組みをつくっていくのではないのか。

【事務局】

校務支援システムの詳細について考える委員会ではない。

【委員】

そうであれば校務支援システムについては教務主任らのニーズを聞いて、そこから話し合うスケジュールとすべきと考える。

【委員長】

教務主任会とどう連携を図っていくのかは委員会での検討が必要である。校務支援システムは底辺にあるが、その上の理念の部分は委員会が考えるべきである。

【委員】

スケジュールが遅く現場の教育課程作成に間に合わないのではないか。また、検討内容が多く精選が必要である。7月までに間に合うか不安が残る。

【委員長】

検討のテンポについてもここで当然問題となってくる。スケジュールがよくないならスケジュール案についてもご意見いただきたい。

【委員】

リーフレット配布は予定より1ヶ月前の8月であるとよい。

【委員長】

それも含めて検討していく。

○議事（5）その他

【委員長】

続いて、議事（5）「その他」に入る。事務局から何かあるか。

【事務局】

今後、委員会の資料は可能な限り開催前にお送りする。事前に目を通し、委員会当日にお持ちいただきたい。また、本日配布した資料は、今後の委員会および部会にご持参いただきたい。事務局からは以上である。

【委員長】

以上で、第1回三学期制移行準備委員会を終了する。